

講壇点滴

主に立ち帰り、主を信じる

使徒言行録九章 三二〜四三節

牧師 姜 涇 米

ここには、リダとヤッファという町で、ペトロが奇跡を行なったことが語られています。リダでは、八年間中風で床に就いていたアイネアという人を癒し、ヤッファでは、タビタという女性を生き返らせたのです。ここに見つめられているのは、人間の病と死です。

主イエスの十字架の死と復活によって、私たちは罪を赦され、神様とのよい交わりを与えられ、私たちを生かし支えてくださる神様の恵み、祝福のもとに置かれています。救いの恵みが、ペトロを通して教会に現わされ、教会の人々がその恵みにあずかったのです。私たちの、病や老いや死の現実の中で、主イエス・キリストによる罪の赦しと、神様の祝福の下に生きる新しい命が現わされるのです。そして、私たちが主イエスの十字架と復活によって、既に死の力に勝利している神様の恵みにより新しく生かされていくのです。

ペトロの働きによって起ったのはそのことでした。三五節には、「リダとシャロンに住む人は皆アイネアを見て、主に立ち帰った」とあります。四二節には、「このことはヤッファ中に知れ渡り、多くの人が主を信じた」とあります。人々が、主に立ち帰った、主を

信じたのです。それがこの出来事によって起ったことでした。彼らは、十字架にかかって死んでくださり、復活なさった主イエス・キリストが、今、自分たちの歩みを、日々の生活を、支え導いてくださることを信じて、その主を自分の支配者と認めたのです。病や老いや死の力の支配をどうすることもできない自分が、しかし、それらの力ではなく主イエスの救いの恵みのもとにこそあるのだと信じ、主イエスによる救いの恵みを喜び、感謝して生きる者となったのです。それが、主イエスを信じ、主イエスに立ち帰るといふことです。

主イエスが私たちのために受けてくださった十字架の苦しみを忘れ、そこから離れてしまう時に、そこに神様の恵みのご支配があることが見失われてしまうのです。そして肉体の死に直面する時、神様の独り子主イエスが私たちのために死んで、墓に葬られてくださったことを忘れて、神様の恵みから離れてしまふときに、死を神様の恵みや祝福から切り離された、汚らわしいものであるかのように感じてしまうことが起るのです。私たちの歩みの全ての時と所において、主イエス・キリストによる神様の救いの恵みが、死に勝利する新しい命が、私たちを捕え、支え、導いていることを信じる者でありたいのです。生きて働いていてくださる主イエス・キリストが私たちを招いておられるのです。心を開いてこの招きに応え、主に立ち帰るならば、そこには真実の癒しが与えられます。

(九月八日公同礼拝)

第四主日(八月二五日) 公同礼拝

「平和と畏れと慰め」 姜 涇米牧師

イザヤ 四〇・一

使徒言行録 九・二三〜三一

九月講壇一覧

第一主日(九月一日) 公同礼拝

「神の言葉は滅びない」 高橋和人牧師

イザヤ 四五・二〇〜二五

マタイ 二四・三二〜五一

第二主日(九月八日) 公同礼拝

「主に立ち帰り、主を信じる」 姜 涇米牧師

エレミヤ 四・一〜二

使徒言行録 九・三二〜四三

第三主日(九月一五日) 召天者記念礼拝

「生者と死者の主」 高橋和人牧師

詩編 一三〇・一〜八

ローマ 一四・七〜九

第四主日(九月二二日) 公同礼拝

「その時に備えて」 高橋和人牧師

マラキ 三・一九〜二〇

マタイ 二五・一〜一三

第五主日(九月二九日) 公同礼拝

「神の前にいる」 姜 涇米牧師

詩編 三六・一〇

使徒言行録 一〇・一〜三三